



己が名を「お玉杓子」と情な
令輝く「たべらこ」と呼べ

四谷 だにし

大人 二万五千元 子
供 一万三千元(中学生
以下)
申し込み及び問い合わせ
せ先 「山びこの丘」

新体験交流ガイド

「みんなの奥三河」の実施について
〜見て・感じて・学んで！奥三河の
素晴らしさ・大切さを〜

新城設楽地域では、食と緑の基本
計画・新城設楽地域推進プランに基
づき、都市と農山村とが協働・連携
した新たな交流のモデルづくり
に取り組みます。都市と農山村との交
流企画を通じて、都市住民の中の
「農山村を支援したい」という思い
と、農山村側の「食と緑の豊かさを
伝えたい」という思いを結びつけ、
森林や農地の保全、景観保全などの
面で県民・生産者の協働連携活動を
促進しようとするものです。このた
め、新城設楽地域では、十八年度か
ら、地域を五つのゾーンに分け、
「森林」、「食」、「水」、「自然・文
化」をテーマに新体験交流ガイド
「みんなの奥三河」を実施します。

主な実施内容

- ① 知られざる鳳来の自然、文化
・千枚田の古今(散策) ・四谷地区
の何気ない自然 ・鳳来寺山自然科
学博物館を探ろう ・仏坂を訪ねて
- ② のんびり体験・気さくな交流
・四谷の千枚田での稲作体験(自然
にやさしい米作り) ・山里の食体験
(梅、蒟蒻、山芋) ・四谷地区住民
との交流

実施日程

- 第一回 六月十七・八日(土、日)
田植え体験 虫狩りなど
 - 第二回 十月十四・十五日(土、日)
稲刈り体験 博物館を探ろうなど
 - 第三回 十二月十日(日)
餅つき大会 地区住民と交流会
- 参加資格**
三回の体験交流企画に通して参加
できる方

参加費(宿泊費、体験料、昼食代)



(今年の餅つき大会)
この企画は、「山都共生」を理念に
地元で活躍している「田吾作」の大き
な協力で実現されました。

Tel 0536-35-1191 FAX 0536-35-1194

学校田の代かき

五月八日(月)、連谷小学校の児童
(十一名)はヤニー先生(国際理解教
育)を交え、学校田の代かきを行
いました。ヤニー先生は最初、田んぼ
の泥に入るのに躊躇していました
が、連谷っ子達に引きずり込まれ、
楽しく代かきを行いました。



昼食は売店のおばさん達がわざ
わざ四阿屋まで来て「五平餅」を作
ってくれました。



里山ウォーキング

「青田が目にしみる
四谷の千枚田を訪ねて」

新城市教育委員会スポーツ進行グループでは仲間作りや市民の皆さまのさらなる健康の保持増進を図るため、ウォーキング事業を実施しています。

今回はその一環として農村景観、豊富な野生動物、伝統文化など幅広い分野において、農村を訪れる人々にとってやすらぎと潤いを感じさせる場所として大臣賞を受賞、また全国棚田百選、東海美の里百選にも認定されている「四谷の千枚田」の歴史や棚田の役割、村づくりなどについて小山舜二（ふるさと指導員）の案内で五月二十七日（土）、ウォーキングが行われます。

「子ども農学校」

J A愛知東農協では昨年からは四谷の千枚田で米作りを行っていません。参加者は管内の小学校三年生から六年生の子供達が対象です。

今年も、五月十三日（土）、五十九



名の子供達が高橋庄一千枚田保存会長の指導で小雨降る中、田植えが行われました。今後の予定は稲の生育観察を二回、稲刈り、脱穀を体験し、十月二十八日（土）、J A愛知東「農協まつり」で収穫したお米の販売、参加した子供達の食味体験などが計画されています。

情報スクランブル

新城の千枚田で田植えを体験

名古屋などの10人

都市と山村の交流を目的とした「三河の山里ツーリズム」の一企画として、名古屋市や岡崎市から応募した六組十人が十三日、新城市内の棚田「四谷の千枚田」で田植えを体験した。県と三河の六市町村、中日新聞社などで行く三河の山里活性化事業実行委員会主催。参加者は、地元農家の小山舜二さん（六十五）から千枚田の歴史や小さな田んぼで耕作する苦労話を聞いた後、小山さんが所有する四枚の田んぼへ。雨が降る中、はだしにかっぱ姿で入り、腰をかがめて苗を手植えしていった。友人と二人で参加した名

古屋市千種区の教員飯尾桂子さん（三二）は「田んぼの中は、思ったより温かくて気持ちいい」と話し、初めての体験を楽しんでいた。小山さんは「体験を通じて自然豊かな山村の魅力を知ってほしい」と期待をよせていた。参加者は七月に草取り、九月に稲刈りも体験する。

【中日新聞愛知総合東河】H.18.5.14



げなげな喃

▽いまじゃあ、知らんが、田んぼに「水苗代」をたてた頃にやあ、喧嘩をして籾種を播くと籾が代から溝なんかには跳び出しちゃって「らんごく」になるつちゅつとつたがのん：そいだんで、「らんごく」な苗代を見ると「あそこじゃあ：籾を播きながら、喧嘩でもしたずらあ：」なちゅうことをよう聞いたがのん。今じゃあ、箱苗ばつかしたが、箱苗は喧嘩して播いても「らんごく」にならんずらあかのん：▽あのやあ：餅を植える時にやあ：段々田んぼの下の方へ植えると、尻餅ちゅつて嫌われるのをやあ：知つとるかんの：▽酉の日に田んぼを植えることやあ、火事になるつちゅうじゃんかんの？ それに、お寺の田植えは「兎の日」って決まってるが、ありやあ：お寺のおっ様がこすいもんでやあ、お寺の田んぼを手伝って植えさせえと思つて言つたじゃあないずらあかのん：（舜）

行 平成十八年五月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二